

山形大学広報誌

みどり樹

Yamagata University Quarterly Magazine

Midori^{gi}

vol.38
Winter 2008



特集

世界を見据えた
教育研究と地域貢献を語る。

研究室訪問 / 工学部

不正やトラブルを未然に防ぐ
経済学と情報科学の融合。

特集

「グローバルCOEプログラム」採択記念座談会 プロジェクトを牽引する ビッグ3が、世界を見据えた 教育研究と地域貢献を語る。

山形大学医学部長

嘉山孝正

日本学士院会員

石坂公成

山形大学附属病院長

山下英俊

医学部の「分子疫学の国際教育研究ネットワークの構築」が
世界トップレベルの教育研究拠点づくりを進める
文部科学省の「グローバルCOEプログラム」に採択されました。
平成20年度、同プログラムの採択を受けたのは、
医学系では72件の申請のうちわずか14件。
東京大学、東北大学といった旧帝大が大半を占める中、
新設医科大では唯一という快挙。この最高の荣誉へと導いた
中心人物3名が、その喜びと今後の課題などを語り合いました。



**「21世紀COEプログラム」に
引き続いての採択。
教育研究に国際的な広がり。**

山形大学では、平成15年度に医学系分野において「地域特性を生かした分子疫学研究」で「21世紀COEプログラム」に採択されています。今回の「分子疫学の国際教育研究ネットワークの構築」はその発展形。「グローバルCOEプログラム」の採択を祝して本プロジェクトのキーマン3名にお集まりいただき、採択を受けた勝因や今後の課題、抱負などを伺いました。学外学識経験者として本プログラムの実現にご尽力いただいた日本学士院会員・山形県教育委員会委員長の石坂公成氏、拠点リーダーである嘉山孝正医学部長とBoardメンバーの一人である山下英俊附属病院長。師走の慌ただしさをしばし忘れて、「グローバルCOEプログラム」採択という栄えある2008年を振り返りつつ、将来を展望していただきました。

嘉山 石坂先生をはじめみなさんのご支援のおかげで「グローバルCOEプログラム」に採択され、本当に最高の栄誉と思っておりますが、この「グローバルCOEプログラム」については意外に知られていないようなので私

から簡単に説明させていただきます。文部科学省では、大学の国際競争力を高める狙いで、優れた研究に対して国の科学研究費を重点的に配分する「21世紀COEプログラム」を平成14年度から導入しました。COEは、Center Of Excellenceの略で、卓越した研究拠点を意味します。「21世紀COEプログラム」の取り組みを踏まえて、社会のあらゆる分野で国際的に活躍

できる若手研究者の育成機能の抜本的強化と国際的に卓越した教育研究拠点の形成をめざして平成19年度から実施されているのが「グローバルCOEプログラム」です。

石坂 同じ予算を使うなら、優れた研究成果が望める大学に多く配分した方が当然有効なわけですからね。遅ればせながら、日本でもようやく国の将来にとって、必要な研究に対して大きな予算を配分できるシステムができたということでしょうか。

嘉山 本学では、平成15年度に医学系分野において「地域特性を生かした分子疫学研究」が「21世紀COEプログラム」に採択されました。これは、そう簡単には採択されない狭き門でしたが、ポスト「21世紀COEプログラム」として新たにスタートし



地域住民一人ひとりに対して、研究概要を説明し、理解していただいた上で臨床データや遺伝子情報のデータベース化の同意を得ている。「山形コホート」の膨大な臨床データはこうした丁寧で地道な取り組みによる信頼関係で成り立っている。

た「グローバルCOEプログラム」は、採択数が以前の半分、補助金交付額がおおよそ2倍という難易度も資金もグレードアップしたものです。今回、申請の対象となったのは、「医学系」と「数学、物理学、地球科学」と「機械・土木・建築、その他工学」と「社会科学」そして「国際・複合・新領域」の5分野で、全体の申請件数は315件、そのうち選ばれたのは68件でした。医学系での

申請数72件中、採択されたのはわずか14件ということは、採択率は20%にも満たないわけですから、やはり快挙と言って良いでしょう。

**長年の健康診断で築き上げた
地域住民との信頼関係が
COE採択の切り札に。**

嘉山 「21世紀COEプログラム」の「地域特性を生かした分子疫学研究」に引き続き、今回の「分子疫学の国際教育研究ネットワークの構築」においても軸となっているのはコホート研究(コホートとは集団の意)です。一定地域の住民の臨床データや遺伝子情報をデータベース化し、それを基に、さまざまな病気の発症や病態を遺伝子

レベルで解明。予防医学や治療薬の開発に役立てるといえるものです。

山下 医学部では、1979年から舟形町や高島町、寒河江市などに医師を派遣し、住民の健康診断を継続的に行ってきました。こうした地道な臨床活動により住民との信頼関係が生まれ、血液や遺伝子のデータ化も快く承せていただいています。

嘉山 地域住民との信頼関係を築くために大学としてはその他にもさまざまなサービスを提供しています。たとえば、

健康に関する啓蒙活動として講演会の開催などもそのひとつ。こうした活動の運営資金の調達などを目的に「株式会社COMEセンター」を立ち上げ、石坂先生に代表になっていただいています。地方自治体からも株を購入していただき、それに企業からの資金も加えて活動を行い、出資いただいた以上の地域還元を行っているところです。
山下 医学部が継続的に行っている健康診



嘉山孝正
かやまたかまさ ●医学部長／神奈川県出身。東北大学医学部卒業。平成14年医学部附属病院院長就任。平成15年医学部長就任。世界水準の医学を標榜し、研究・教育両面で様々な改革を推進。大きな成果を上げている。



石坂公成
いしざかきみしげ ●日本学士院会員・山形県教育委員会委員長／東京都出身。東京大学医学部卒業。ジョンス・ホプキンス大学医学部教授。ラホイヤアレルギー免疫研究所所長等歴任。文化勲章など受勲・受賞も多数。



山下英俊
やましたひでとし ●医学部附属病院院長／東京都出身。東京大学医学部卒業。東京大学医学部講師等を経て平成11年山形大学医学部教授。平成15年医学部附属病院院長に就任。良質な医療の提供と医師育成に努めている。



断について少し詳しくお話ししますと、まず、約30年前に舟形町で糖尿病検診を

や、患者の体質に合わせた医療品の確立、ひいては予防医学にまで繋げたいと考えています。

将来の医学にとって 重要な研究分野を担うのが 山形大学だと思います。——石坂

石坂 そう、予防医学。分子疫学というのは、病人から始まるわけではありません。「山形コホート」のように健康診断の際に血液や遺伝子を採取

遺伝子と病気の因果関係が解明されれば、遺伝子タイプごとの創薬という展開も考えられるわけです。統計的に糖尿病になりやすいとわかったら早い時期から食生活に気をつかうこともできるわけです。すぐに結果が出る研究ではありませんが、将来の医学にとっては必ず重要になってくる分野として国が認め、その研究を任せるに最もふ

行ったのを皮切りに、川西町、白鷹町、高島町、寒河江市の各市町村で、順次、住民検診が開始されています。現在もずっと続けられており、膨大かつ質の高い臨床データが蓄積されているのです。これらを総称して「山形コホート」と呼んでいます。

**将来の医学にとって重要。
より効果的な創薬や
予防医学の向上にも期待。**

嘉山 今回のプログラムでは、前回対象としていた疾病、糖尿病、循環器疾患、呼吸器疾患、C型肝炎、パーキンソン病に加えて、新たにがんの分子疫学研究にも積極的に取り組んでいます。これで今後、日本の医療で問題となる疾患をすべて網羅。病気の発症や進行に影響を与える遺伝子タイプを解明するために「先端分子疫学研究所」を設立しました。遺伝子レベルで病因に働きかける医薬品の開発



自治体へ医師を派遣し、地域住民を対象に開催されるバーチャルスクール「すこやか教室」。

して調べるわけですから、中には病気のものもありますが、基本的には健康な人のDNA。それが5年後、10年後にその人が病気になった場合、元来遺伝子に変異があったことと関係があるということや、どのような変異があれば将来この病気になる可能性があるなど、将来の病気の可能性が前もってわかる、いわゆる予防医学の分野。

さわしい大学として山形大学が選ばれたのだと私は思っています。日本でいちばん多くの健康な人の遺伝子データを持っているのはおそらく山形大学でしょう。それだけさまざまな研究、解析できる機会に恵まれているわけです。

嘉山 そうですね。コホート研究という特徴ある分野だったことも採択の一因でしょうね。九州大学でも久山町というところでコホート研究が行われていますが、そのデータベース規模は約7,700人と聞いています。「山形コホート」

は約12万人ですからスケールがまったく違います。コホート研究分野では、山形大学がトップランナーということをきちんと評価いただいたということでしょう。

**大学としてはユニークな体制。
「研究拠点Board」を組織し
人事・予算を構想・立案。**



嘉山 このプログラムには、研究内容のほかにも特筆すべきものがあります。それは、組織づくりと運営方法。アメリカのラホイヤーアレルギー免疫研究所を設立された石坂先生のご経験とノウハウをお借りし、結城学長のご理解もいただいて、大学としては画期的な組織運営を導入しています。「先端分子疫学研究所」を研究機関、教育機関としてより有効に機能させるために、本来の大学人事からは遊離させ、人事・財政を含む全体的な構想計画を「研究拠点Board」が決定します。Boardは、研究所長、副所長、3部門の研究センター長、および学外の学識経験者4名によって構成されています。学識経験者には、石坂先生をはじめ、宮城県対がん協会会長、東北大学名誉教授の久道茂氏、理化学研究所発生発達研究グループグループディレクターの御子柴克彦氏、そして日立製作所基礎研究所フェローの小泉英明氏と国内のそうそうたる科学者のみなさんに名を連ねていただいています。

コホート研究分野では 山形大学が トップランナー。—— 嘉山

山下 嘉山先生が医学部長になられてから附属病院でも医学部内でも大胆な改革に取り組んでこられました。COEも連続し

て採択され、山形大学医学部の評価は確実に上昇しています。研究機関としてはもちろん、教育機関としても「臨床を大事にし、いいお医者さんを育てる医学部」というイメージが定着し、学生たちの意識にも大きな変化が感じられます。

国内外の大学・企業との連携や コホートの拡充など、 今後の課題を見据えて着実に。

嘉山 「グローバルCOEプログラム」には、2年経過後の中間評価、事業期間終了(5年)後の事後評価がありますが、私たちはそれらを持つまでもなく、自ら研究成果を検証する制度をつくっています。「研究拠点Board」の学外学識経験者4名に、研究成果およびそのプロセスも含めて評価していただくものです。

本プログラムの今後の課題を挙げるとすると、まずは「山形コホート」の拡充です。九州大学の久山町コホートよりは断然多いわけですが、国家規模となるとまだ十分とはいえません。今後は、天童市や上山市などにも健康診断活動を広げていく方向でいます。

さらに、分子疫学的研究が人種や民族の壁を越えて成り立つのかどうかを検証することも非常に大切なので、米国ユタ大学が行っている「ユタ・コホート」やアイスラン

ド国家とdeCODE社が共同で行っている「アイスランド・コホート」とも連携し、日本—米国—欧州間で検証研究を行うことも決まっています。それから、企業との連携ですね。企業に振り向いてもらえない研究は本物ではないと言われているぐらいですから。これも石坂先生にご尽力いただいたのですが、創薬という分野で製薬会社さんとの契約が継続しています。こうした世界的かつ立体的な研究によって成果を上げることができれば、ここ山形に日本のコホート研究所が置かれる可能性が大きく、世界3大コホート研究の拠点のひとつとなるわ

良い医者育てる医学部という イメージが学生の意識に良い 変化を与えていると感じます。—— 山下

けです。

石坂 そうなれば地域社会への波及効果は大きいものになりますよ。一躍、医科学の町として注目を集め、住民の誇りにもなります。その山形県に及ぼす効果たるや絶大で、モンテディオ山形のJ1昇格効果どころではありませんよ。

そんなユーモアあふれる石坂先生の言葉が会場の笑いを誘い、「グローバルCOEプログラム」への意欲と期待感がさらに高まる中、座談会は和やかに幕を下ろしました。

人文学部

Faculty of
Literature and Social Sciences

実践型就職対策講座を実施



10月11日(土)・12日(日)の2日間、(株)キャリアクリエイトから佐藤貴子氏を講師としてお招きし、「実践型就職対策講座」を実施しました。

一般的な就職対策と異なり、少人数制による実践的内容で、自己分析作業→自己PR作成→エントリーシート対策→模擬面接→集団討論演習が行われました。

また、1日目終了時には、「エントリーシート作成と事例収集」という課題が出され、疲労困憊の中、徹夜で作成した学生も

見受けられましたが、「綿密な自己分析ができた良い機会だった」、「自分の考えを持った人に出会い、良い刺激を受けた」など好評でした。

本学部では、この他にも、キャリア教育、インターンシップ等を含めた「キャリア・アップ支援プログラム」を構築し、入学から就職に至るまで全面的にサポートしており、結果、読売ウィークリー(2008.8.3号)において平成19年度卒業生の就職ランキングが人文系学部で全国1位になりました。

新しい大学院の説明会を開催

地域教育文化学部

Faculty of
Education, Art and Science



地域教育文化学部では、11月21日(金)に2009年4月に開設予定の2つの大学院について説明会を開催しました。1つは就職大学院(専門職大学院)である「教育実践研究科」、もう1つは地域教育文化学部の上に立つ「地域教育文化研究科」です。教育実践研究科はエキスパート教員の養成を目指して「学習開発コース」と「学校力開発コース」の2つのコースから構成されています。一方、地域教育文化研究科は、心のケアに貢献できる専門家養成の「臨床心

理学専攻」と音楽、造形、スポーツの各分野において専門家を養成する「文化創造専攻」の2専攻により構成されています。

説明会では、飯澤学部長の挨拶の後、それぞれの大学院の内容について担当教員から説明がなされました。説明終了後、学生達がそれぞれ希望する大学院の担当教員と個別の相談をおこなうなど、新設大学院に対する理解を深めました。

理学部

Faculty of Science

地球環境学科設立30周年 記念式典を行いました



昭和53年4月に地球環境学科の前身である地球科学科が新設されてから、今年で30周年を迎え、これを祝して、卒業生達を中心となって記念行事を行いました。行事としては、例年行っている「OBによる就職ガイダンス」をプレイベントとして、その後に記念式典、OB会「かけ橋」会総会、記念パーティー、さらに有志による蔵王巡検を行いました。参加者は、OB、(元)教員、学生などで、記念式典・パーティーとも約150人が出席した盛大なものとなり、

第1期卒業生で実行委員長の林文雄氏からは、「地球を愛し、環境を考え、資源を求め、明日の山形、将来の日本、未来の地球に貢献しようとした人達の集まりである地球環境学科を、皆で支え、発展させて行きましよう」と、卒業生の学科に対する想いの込められた挨拶がありました。

この式典はOBから話が持ち上がり、OB達が企画しました。このようなOBが大勢いることは理学部の財産であり、理学部の教育研究を支える一助になっています。

学部教育から専門医教育までの 一貫した医師養成コースを新設します



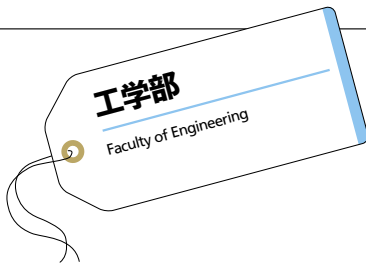
医学部では、10月16日(木)に記者会見を開催し、医師確保及び診療科偏在を解消するため、医師の減少の著しい小児科、産婦人科、救急医学、外科の医師養成の為に専修コースを新設することを発表しました。

これは、3年間の学費免除などを盛り込んだ、我が国初の「学部教育から卒業臨床研修、専門医教育(後期臨床研修)までの一貫した医師養成コース」であり、期待される効果としては、入学時点ではなく、臨床修練を開始する学年である4年生の時点で

選択する専修コースを新設することにより、より明確に当該診療科を将来専門とするモチベーションを持つ学生を支援することができることと、学部教育から専門医教育までを山形大学医学部及び附属病院を中心として行うことにより、県内定着率を向上させ、将来にわたって山形県の地域医療に貢献する医師の養成が期待できることです。



記者会見の様子



東京都荒川区との 連携協定を締結しました

工学部では、10月24日(金)に、荒川区との連携協力に関する協定を締結しました。荒川区役所において結ばれた協定の主な内容は、荒川区内にある企業との間において、技術支援、共同研究等を推進することと、荒川区内の産業及び地域活性化のための人材育成です。

荒川区からは、オフィスの一角と研修室を準備していただきました。今後、これらの施設を拠点とし、協定内容の推進にとどまらず、同区内の都立高等専門学校や隣接

区との連携を進め、社会人学生等の募集や共同研究等、外部資金の獲得を目指していきます。また、首都圏での山形大学の認知を高める目的も含め、地元のニーズの高い「ものづくり技術経営学専攻(MOT)」の授業の一部を開講、併せてものづくり企業の集積地である荒川区内企業の支援やビジネスパーソンの教育も手がけていきます。

将来的には荒川区での拠点を活用して山形県の産業と東京の橋渡しとなるような展開を目指していきたいと考えています。



エダマメの王様ダダチャ豆で、 初のエダマメ研究会賞を受賞



10月3日(金)に「ダダチャ豆遺伝資源の収集、保存および特性解明に関する研究」でエダマメ研究会(会員数180名)から受賞された赤澤経也准教授の寄稿を紹介します。

私がエダマメの研究を本格的に始めたのは約25年前、当時、エダマメはダイズの用途上の一つで、実取りダイズと何ら変わらないという認識であり、実取りダイズに関する研究報告は多くあったが、エダマメダイズに関する報告はほとんどなかった。

美味しいダダチャ豆が穫れる鶴岡市に生

まれ育った私は、ごく自然にエダマメの研究を行うようになった。私の研究で、ダイズの中にエダマメダイズが存在することを食味成分の違いから初めて明らかにしたことと、ダダチャ豆の遺伝資源を収集、保存をしてきたことに対して、今年創設されたエダマメ研究会賞を頂くことができた。

定年退職の年に、長年行ってきたエダマメの仕事がこの様なかたちで認められたこと、感無量であり、関係者の皆様様に感謝の気持ちでいっぱいです。



ネット時代における商取引の不正やトラブルを未然に防ぐ 経済学と情報科学の融合。

松尾徳朗 大学院理工学研究科情報科学専攻准教授

コンピュータやインターネットの急速な普及・進化を受けて、私たちは暮らしやビジネスシーンにおいて飛躍的なスピードや利便性を享受している。しかしその反面、商取引でいうところの架空名義人入札や不特定多数との談合など、情報が電子化されたことによる新たな問題が生じていることも事実。松尾先生の研究室では、それらの問題を解決するためにマイクロ経済学のノウハウとコンピュータを用いた制度設計および統制に取り組んでいる。海外での学会発表や英語論文の採録など、国際的な活躍も目覚ましい。

**自他共に認めるハードな研究室。
発表や勉強会に追われながらも
熱血指導で進化する学生たち。**

30歳の若さで大学院理工学研究科の准教授と聞くと、中・高校生時代からパソコン少年で大学でも情報を専攻した学生だったに違いないと思いがちだが、松尾先生の経歴を見るとちょっと違う。大学時代は初等教育学を学ぶとともに数学コースに所属し、中等教育の数学教師を目指していた



松尾徳朗

まつおとくろう ●大学院理工学研究科准教授／福岡県出身。博士(工学)。2006年名古屋工業大学大学院工学研究科博士後期課程修了。同年、本学の准教授に就任。電気通信普及財団や情報処理学会を含む多数の国内外の学会から表彰。これまでに、多数の国際会議をはじめ海外の企業や大学から依頼され、基調講演や招待講演を行う。IEEE IWEAをはじめ多数の国際学会委員長として国際会議を企画運営。

のだ。しかし、大学2年次のある先生との出会いをきっかけに大学教員への道を志し、大学院修士課程では知識科学、博士課程では知能情報学を専攻。学生時代から果敢にも自由応募による就職活動を展開し、博士課程終了後20代にして本学工学部准教授(当時は助教授)のポストに就き現在に至っている。現在、研究室設立から3年目となり、所属学生は学部生と大学院生合わせて9名。

松尾先生自ら「松尾研究室での研究活動は極めてハード」と再三アピールしたこともあって、学生たちもかなりの覚悟で研究室の門を叩いたという。実際、松尾研究室は、毎週のゼミでの発表はもちろん、人工知能やマイクロ経済学に関する各種勉強会などが目白押しで、前評判に違わぬ超ハードスケジュール。それだけに学生たちの成長ぶりは顕著で、フルペーパー査読ありの国際会議での英語論文の採録、学会での受賞など輝かしい実績を刻んでいる。

**インターネットオークション等、
コンピュータ時代の商取引が
かかえる問題を解決に導く。**

松尾先生の研究の概要を近年盛んな電子商取引に特化して紹介してみよう。現在はインターネットオークションやインターネット販売等が全盛で、商取引といっても経済学の分野だけでは立ち行かなくなっているのが実状。こうした事態を経済学と情報学を融合させて、コンピュータを使って



電子商取引を専門分野のひとつとする松尾研究室にとっては欠かせないコンピュータ。インターネットオークションの検証に、学会用の資料制作にとフル稼働。

学生は積極的に国際学会発表を志願、
情報科学を通して国際感覚も磨く。
試練に挑み、克服する喜びと自信をつかむ。



Rational, Robust, and Secure Negotiations in Multi-Agent Systems

2008年4月に発行された
松尾先生が手がけた共編著書。
このほかにも多数の著書、共編著書が
全世界で発売されている。

取引の経済制度設計を図ろうというのが松尾研究室のテーマのひとつ。オークションにおける代表的な不正行為といえば、入札者または売り手のサクラ入札や架空名義入札、入札者同士の結託や談合、詐欺などが考えられる。これらに対して現状では、ほとんどが対処的な解決であり、従来手法では本質的な解決が困難である。そこで松尾研究室では新しい方法論を發明。たとえば不正を企むとかえって損をしてしまう

ような経済メカニズムの開発に実績があり、計算論的制度設計や情報経済学といった新しい研究領域の創成にも寄与している。

**学生時代から世界へと開かれる扉。
学生一人一人の可能性を広げ、
研究室としての成果も充実。**

「個性あふれる科学者・技術者集団」という松尾研究室のキャッチフレーズ通り、研究室の基盤プロジェクトもバラエティに富んでおり、前述の情報経済学、電子商取引のほか、複数財入札の効用分析、定性シミュレーション、教育工学にまで及ぶ。

松尾研究室のもうひとつの大きな特長は、学生時代から国際舞台に出られるということ。学会での発表や英語論文の発表など、この研究室はそのまま世界への扉でもある。松尾先生自身、学生時代にかなり多くのフルペーパー査読つき国際会議で発表するなど、国際的な経験を積んできており、それが必ずや学生たちにとっても有意義な経験になると確信しているからである。松尾研

究室のポリシーとして、主としてジャーナルに加え質の高いフルペーパー査読つきの国際会議にしか論文を投稿しないとのこと。松尾先生はさまざまな国際会議に出席し、講演を行うだけでなく、国際学会委員長として国際会議を主催する立場。企画から運営、スポンサー集めにいたるまで何でもこなすオールマイティ。年齢的には限りなく学生たちに近い松尾先生の精力的な活動ぶりを目の当たりにすることで、学生たちの意識も自ずと高まり、研究室全体のレベルアップにつながっているようだ。



世界各国を飛び回る松尾先生ならではのコレクション。さまざまな会議やイベントに出席した際のネームプレート。

山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1 真夏でも18℃を保つという全国でも珍しい天然の貯蔵庫の中で、ワイン造りへのひたむきな思いを語る赤松さん。「今の学生さんはスマートだね」と山大生の印象も話してくれた。

2 ひんやりとした貯蔵庫内はワイン独特の芳醇な香り。その一角で出荷の時を待つ、すでに瓶詰めされた赤、白、ロゼワインの数々。膨大なワインボトルの中から適宜、ラベリングされ市場へと送り出される。

3 学生たちにもワインを楽しんでほしい。そんな思いから低価格で提供されているオリジナル銘柄「山形大学」。山大農学部で栽培されたぶどうで山大OBが作り、山大の生協でしか手に入らない、山大尽くしのワイン。

やりがいや将来性で選んだワインの世界、 数々の受賞を自信に、さらに高みを目指して。

赤松博美 庄内たがわ農業協同組合・月山ワイン山ぶどう研究所 所長

お隣秋田県出身の赤松さんは、農学部で微生物や有機化学を学び、大学院修士課程でさらに学びを深め、教授の推薦で庄内たがわ農業協同組合(以下JA庄内たがわ)に就職。当時、JA庄内たがわでは、地元の人々や修験者が山林原野に自生する山ぶどうで葡萄酒を作って愛飲していたという風習に着目し、村民に日本山ぶどうの栽培を推奨し、本格的なワイン造りに着手すべく、醸造法などその分野に長けた人材を捜していたのだ。赤松さん自身、お酒が好きだったこともあり、ワイン造りに一から関われるやりがいと将来性を感じて躊躇なくこの世界に飛び込んだという。昭和54年、JA庄内たがわでは果実酒製造免許を取得し、「月山ワイン」と命名し、製造販売を始め

た。赤松さんの職場は、国道112号「道の駅月山」内にある「月山ワイン山ぶどう研究所」。旧国道のトンネルをそのまま利用した、全国でも珍しい天然の貯蔵庫として話題になったところだ。そこでワイン造りはもちろんのこと、ぶどう農家への栽培指導や貯蔵、販売、経営に至るまで、まさに「月山ワイン」の司令塔として歩んできた。あれから30年、「月山ワイン」はジャパンワインコンペティションにおいて2006年には銅賞と奨励賞を、さらに2008年には銀賞を受賞するなど、着実に質を高めており、成長を遂げている。さまざまな賞の受賞は大きな自信になるとしながらも、さらに上を目指して止まない赤松さん。

そんな赤松さんの貴重な経験に学ぶべき

ことは多いと、農学部の授業「先輩から学ぶ」では何度か外部講師を依頼され、現役学生たちに向けて講義もしている。ワイン造りにおける苦労話や工夫話に加えて、ワインの飲み方指導などもあって評判は上々。赤松さん自身の山大生時代はというと、特に修士課程の2年間はめっちゃくちゃ研究に没頭した充実の日々だったと振り返る。また、苦しい事ほどのちにいい思い出になるようで、少林寺拳法の厳しい練習に共に耐えた友人たちとは今も交流があり、赤松さん自慢のワインを振る舞うこともあるのだという。友、知識、夢、哲学……、大収穫だったといえる赤松さんの大学時代。大先輩に倣って現役学生のみなさんにも実り多い学生時代を過ごしてほしいものである。

一念の成果

今回のランナー:



赤松博美

あかまつひろみ ●秋田県出身。農学部農芸化学学科卒業、昭和53年大学院農学研究科修了。庄内たがわ農業協同組合に入り、果実酒製造免許を取得後「月山ワイン」製造に着手。研究を重ね、全国ブランドに育て上げた。



木曾貴子

きそたかこ ●宮城県出身。より多くの人との関わりを求めて、サークル活動や立命館大学との学生交流プログラムに積極参加。充実していた4年間を振り返りつつ卒論に全力投球の日々。

立命館大学との学生交流プログラムに参加、学生時代の締めくくりにふさわしい貴重な体験に。

活動の成果

木曾貴子 人文学部4年

平成20年6月19日(木)に山形大学は立命館大学と教育内容の充実を図ることを目的として包括的協力協定を締結。木曾さんは、その取り組みの一環として10月・11月に実施された学生交流プログラムに参加。山形で2回、京都で1回の計3回にわたって行われた交流会でたくさんの刺激と影響を受けたという。国立と私立、東北と関西、地方と都市……、さまざまな点对照的な大学で学ぶ学生同士、互いに発見や驚きの連続だったに違いない。中でも、木曾さんが驚いたのは、立命館大生たちが自分たちの大学の総長に対してもズバズバ発言できていることやグループワーク等での討論の活発さ。関西人のノリのよさに終始押され気味ながらも、山大生も徐々に感化

されヒートアップし、積極性を増していったという。12月20日(土)には、東京でこの交流会の成果報告と各大学の改善すべき点等が直接両学の学長・総長に向けてプレゼンされた。4年間の学生生活の中でもっとも刺激的で思い出深かったというこの交流会、後輩たちのためにもぜひ継続し、より充実させてほしいと願う木曾さん。まだ始まったばかりの立命館大学との協力協定、ギリギリ4年次で体験できたことをラッキーと思う反面、次回はもう参加できないと思うと少し残念と悔しさものぞかせた。

「大学生活は自分から行動を起こさないと何もなまま終わってしまうもの。いろんな人と関わりたいと考えてできるだけ積極的に関わりたいとやって来ました。今回の立

命館大学との学生交流もそうだし、学生キャリアサポーターもその1つです」と木曾さん。学生キャリアサポーターとは、大学の就職支援ユニットが導入した制度で、他の学生への支援活動とともにサポーター自身のキャリアアップもめざしてさまざまな企画を実施している。木曾さんも山形県内の企業トップのインタビューを行うなど貴重な機会に恵まれた。自身の就職活動においてもこのキャリアサポーターとしての経験はいいアピール材料になったという。木曾さんのこうした自ら行動に移すという積極性が功を奏し、第一希望の企業へ就職するという夢も叶った。学問的な学びプラスアルファもとても重要。立命館大学との今後の交流からも多くを学び取ってほしいと願う。



1

立命館大学との学生交流会、山形会場での第2弾。この日は蔵王山寮を会場に授業改善グループと地域グループに分かれてのグループワーク。木曾さんは地域グループで、地域貢献について活発に意見を交わした。



2

山形での2回目の交流会日程は、ちょうど大学祭と重なり、立命館大生と一緒に盛り上がった八峰祭。参加学生が全員そろって記念撮影。みんなすっかり馴染んでいい笑顔。木曾さんは前列右から3番目。



3

京都で行われた第3回交流会、京都市内でのフィールドワークの様子。京都の歴史的文化である「映画」をテーマに、松竹撮影所の見学や映画口ケ地訪問などを行った。京都ならではの風情や風景も堪能できた。

エリアキャンパスもがみ もがみめぐり

シリーズ⑤ 真室川町



「エリアキャンパスもがみ」は、最上地区8市町村の豊かな自然環境を教育・研究・地域連携に生かそうと平成17年4月にスタートした大学と地域の新しい連携モデルです。最上広域圏全体をキャンパスに見立て、さまざまなフィールドワークや地域住民と教職員・学生との交流などを展開。山形大学のキャッチフレーズである「地域に根ざし、世界をめざす」やテーマとしている「自然と人間の共生」を具体的な形として実践しています。この「もがみめぐり」シリーズでは、毎回、一つの市町村をピックアップ。その地域の魅力とそこでの活動内容を紹介します。

ほのかな梅の香が豪雪地帯に春を告げる梅の町。 山村の自然や暮らしに、多くを学ぶ学生たち。



新庄盆地の北部に位置する真室川町は、秋田県と接する山形県最北の町、北の玄関口です。町の北西部には出羽山地の山々が、そして北東には奥羽山脈の神室連峰が連なっています。町の大部分が森林で占められており、昔から林業の町として栄えてきました。町の東西に真室川と鮭川が流れており、それが合流する南部に平野部が広がり、町の中心部となっています。一日の寒暖の差が大きく、また年間を通じ日照時間が短く、冬期間は降雪量が多いといった典型的な盆地気候。全国的に有名なものに「真室川音頭」があり、その歌詞にも歌われているように梅の花が見事。また、加無山県立自然公園などの大自然も町の魅力となっています。

平成20年度、ここ真室川町では、大きく分けて2つのフィールドワークが展開されました。過疎化が進む山村をいかに元気にするかを、実際の体験や地域住民との交流を通して考える「山村活性化調査隊～体験して、ふれあって、小又の未来図をつくろう～」と、神室少年自然の家主催事業を通して、地域の自然、人々、子どもたちとふれあい、豊かな感性と社会性を築くことを目標とした「子どもたちの自然体験等支援講座1・2」です。

「山村活性化調査隊」では、山村の魅力や今かかえている問題、住民の願いなどを感じ取るとともに、これから取り組むべき事などを学生の視点で提言。6月と7月の2回、地域教育文化学部や農学部の学生が1泊2日で小又地区を訪問。鉱石探しや地蔵様・氏神様拝観、山菜採り、歴史資料館見学、地区住民や子どもたちとの交流会などを通して山村をリサーチ。最終日に提言資料を作成し、発表を行いました。一方、「子どもたちの自然体験等支援講座1」には、人文学部と地域教育文化学部の学生が多数参加。5月と7月に実施された講座1では、子どもたちをリラックスさせるためのアイスブレイキングや野外炊飯、星空ビバーク、川遊び、ナイトハイキングなどを体験。また、講座2は10月と12月に行われ、登山やテント設営に加えて、しめ飾りづくりやアイスキャンドルなど、冬季ならではのふれあいも楽しみました。

真室川町の自然や文化、そこに暮らす人々とのふれあいは、学生たちの豊かな人間性育成の一助となったに違いありません。



Area campus MOGAMI

MAMUROGAWA

1 真室川町の指定文化財・正源寺(曹洞宗)の山門。大日坊の江戸後期の総門を移築、復元したと伝えられ、真室城の城主鮭延氏の菩提寺とされている。2「子どもたちの自然体験等支援講座1」で、夏のメインメニュー川遊びをサポート。3「子どもたちの自然体験等支援講座2」では冬の回で野外炊飯をする子どもたちの手伝いに悪戦苦闘。4 小又地区でのフィールドワーク「山村活性化調査隊」の活動として日正鉱山跡地で現地学習。5「山村活性化調査隊」は約1時間の登山の末に巨木「万助の大カツラ」とご対面。6 旧小又小学校の看板のリニューアルに精を出す「山村活性化調査隊」のメンバーたち。



ハルビン

哈爾濱工業大学(中国)と大学間交流協定を締結しました

結城学長が哈爾濱工業大学(中国黒龍江省)及び大学間交流協定校である哈爾濱医科大学(同)と吉林大学(吉林省)を訪問し、9月25日には哈爾濱工業大学との大学間交流協定を締結しました。

同大学外国語学院(学部)と本学人文学部との間では、平成19年3月に学部間協定が結ばれており、学生の交流、研究者交流が行われていましたが、このたび大学間協定の締結に至ったものです。

同大学は特に宇宙衛星の研究が有名であり、折しも、9月25日には中国が有

人宇宙衛星「神舟7号」の打ち上げに成功していますが、これには同大学が大きく関わっています。

哈爾濱工業大学と吉林大学では結城学長による講演会と山形大学説明会が開催され、多数の学生、教職員の参加がありました。吉林大学での山形大学説明会には8月に工学部で開催されたサマープログラムに参加した学生3名も参加し、説明を行った佐藤学先生との再会を喜んでいました。

哈爾濱医科大学では、本学への留学経

験者4名を含む教職員との交流が行われたほか、結城学長が同大学図書館の新築落成式に招待されました。

更に、結城学長は黒龍江省外事弁公室王英春副主任との会談を行ったほか、哈爾濱経済技術開発区管理委員会の協力を得て工場2カ所を見学しました。結城学長が訪問した各大学との間では学生交流、研究者交流が活発に行われてきていますが、黒龍江省と山形県とが姉妹県省となっていることもあり、このたびの学長の訪問によって一層の交流の活発化が期待されます。哈爾濱も吉林大学のある長春も治安が良く、緑も多く町もきれいなところ。留学を考えていらっしゃる学生の皆さんも、是非、留学先の候補に加えてみてはいかがでしょうか。

同行者/高橋博監事、福山泰男教授(人文学部)、佐藤学教授(工学部)、尤銘煒准教授(国際センター)、企画部国際交流ユニット長



哈爾濱工業大学孫副学長と



吉林大学での山形大学説明会

アメリカで交換留学生として学ぶ学生生活

人文学部2年 板垣 久美子

8月20日(水)に始まった留学生活も、もう早いことに3ヶ月が経ちました。あっという間すぎて、3ヶ月前に普通に日本で生活していたことが信じられません。私が通うニューヨーク州立大学コブルスキル農業技術大学は、山形と同じくらいのんびりとした平和な街中にあります。気候もほとんど同じで、山形生まれの山形育ちの私にとっては、とても過ごしやすい場所です。学部は様々な種類があり、学生数も多く敷地も広く、何かと規模の大きい学校です。山形大学は4つのキャンパスがそれぞれ離れた場所にあるけれど、コブルスキルは全ての学部、寮、オフィス等の施設がひとつの場所に集結しているので、もう大学の敷



自然豊かな環境

地内がひとつの街のようなものです。初めのころはよく道に迷い、教室に行くのも一苦勞でした。寮での生活は、初めての地元から離れた生活ということもあり、何かと不便を感じることもありました。共用のお風呂、トイレ、家具の整備など実家と違い全てがそろっているわけではなく、やはりあらゆることに限りがあります。ルームメイトとのシェアなので、生活の違いが出てくるとやはりお互い気を使い不満をもつこともあります。例えば、朝どちらかが早く授業があると、準備するための物音がうるさくなるのは避けられません。しかし、冷蔵庫やテレビのシェアを許してくれるなど、ルームメイトに助けられている面も多く



ニューヨークシティ

あります。生活習慣の違いも慣れてしまえばなんてことはありません。寮生活の良いところは、気軽に友達に会えることです。軽い用事、ちょっとした暇な時間、夜眠れないときなどいつでも気が済むまで喋ることができます。こんな時間が一番楽しかったりします。

授業はもちろん全部英語で説明され、課題の量も日本にいたころとは比べ物にならないくらい多いです。授業自体は少人数で行うのがほとんどで、個人の意見を問われるものが多いです。初めのころ教授は気を使って留学生にあまり指名しませんでした。ある程度時期が過ぎると、声をかけるようになりました。私自身が指名されるときはすごく緊張するし、いまだに完璧な英語なんて喋れません。しかし、しどろもどろでも何か喋ることによって、自信と今後の英語に対するやる気が出てきます。これは授業に限らず、普段の生活でもいえることかもしれません。こんな感じで、留学生活、楽しんでます!!

入学試験

学部

(1)大学入試センター試験

試験日/1月17日(土)~18日(日)

試験会場/山形大学小白川地区試験場(山形市)

山形大学工学部試験場(米沢市)

鶴岡中央高等学校試験場(鶴岡市)

(2)個別学力検査等

●全学部

出願受付期間/1月26日(月)~2月4日(水)

前期日程/2月25日(水)~27日(金)

試験会場/小白川キャンパス(人文学部、地域

教育文化学部、理学部、農学部)

飯田キャンパス(医学部)

米沢キャンパス(工学部)

鶴岡キャンパス(農学部)

名古屋市(工学部)

後期日程/3月12日(木)

試験会場/小白川キャンパス(人文学部、地域

教育文化学部、理学部)

飯田キャンパス(医学部)

(3)大学入試センター試験を課す推薦入学 (推薦入学Ⅱ)

●理学部(山形市)

数理科学科、物質生命化学科、生物学科、

地球環境学科

出願受付期間/1月19日(月)~22日(木)

入学試験/1月31日(土)

●工学部Aコース(米沢市)

電気電子工学科、情報科学科

出願受付期間/1月19日(月)~22日(木)

入学試験/1月31日(土)

(4)私費外国人留学生試験

●人文学部、地域教育文化学部、理学部(山形市)

出願受付期間/1月19日(月)~22日(木)

●医学部、工学部Aコース、農学部

出願受付期間/1月26日(月)~2月4日(水)

●人文学部(山形市)

入学試験/2月12日(木)

●地域教育文化学部(山形市)

入学試験/2月25日(水)・26日(木)

●医学部(山形市)

入学試験/医学科 2月25日(水)

看護学科 2月26日(木)

●工学部Aコース(米沢市)

入学試験/2月26日(木)

問い合わせ/小白川事務部入試ユニット

TEL 023-628-4141

大学院

●社会文化システム研究科(山形市)

出願期間/1月6日(火)~8日(木)

入学試験/2月13日(金)

●地域教育文化研究科(山形市)

出願期間/12月18日(木)~26日(金)

入学試験/1月23日(金)

●教育実践研究科(山形市)

出願期間/12月18日(木)~26日(金)

入学試験/1月22日(木)

●理工学研究科(理学系)(山形市)

出願期間/1月5日(月)~8日(木)

入学試験/2月23日(月)・24日(火)

●理工学研究科(理学系・学部3年次)

(山形市)

出願期間/1月5日(月)~8日(木)

入学試験/2月23日(月)・24日(火)

●医学系研究科

(医学専攻・生命環境医科学専攻)(山形市)

出願期間/12月9日(火)~12日(金)

入学試験/1月8日(木)

●医学系研究科(看護学専攻)(山形市)

出願期間/11月28日(金)~12月4日(木)

入学試験/12月25日(木)

●理工学研究科(工学系・学部3年次)(米沢市)

出願期間/3月4日(水)~6日(金)

入学試験/3月13日(金)

●農学研究科(鶴岡市)

出願期間/1月5日(月)~7日(水)

入学試験/1月21日(水)

問い合わせ/小白川事務部入試ユニット

TEL 023-628-4141

式典行事

平成20年度

学位記・修了証書授与式

●農学部

日時/3月17日(火) 11:00~

場所/東京第一ホテル鶴岡(鶴岡市)

●工学部

日時/3月22日(日) 10:00~

場所/米沢市営体育館(米沢市)

●人文学部、地域教育文化学部、理学部、医学部

日時/3月25日(水) 10:00~

場所/山形県体育館(山形市)

卒業研究発表会

平成20年度卒業研究発表会

工学部

●大学院ものづくり技術経営学専攻

日時/2月28日(土) 10:00~16:00

場所/伝国の杜(米沢市)

内容/修士学位論文公聴会

対象/大学生、高校生、一般の方

入場料/無料

問い合わせ/MOT 新藤

TEL 0238-26-3621

農学部

毎年3つの学科が公開卒論発表会を行っています。

受験を考えている高校生、アイデアの種

を探している企業の方々、農学に関心をもつ地

域の方々など、実際に行われている研究を見

聞きできる好機ですので、ぜひおいでください。

入場料/無料(予約不要)

※プログラムなどの詳細は日程が近づいたら

農学部HPで紹介いたします。

●生物生産学科

日時/2月下旬 13:00~17:00(予定)

場所/学外(鶴岡市内)

発表形式/ポスター発表

問い合わせ/学科運営協力室

TEL 0235-28-2901

●生物資源学科

日時/2月20日(金) 9:00~16:00

(13:00~15:00は学生が来訪者の質問

に直接答えます。)

場所/3号館

発表形式/ポスター発表

問い合わせ/学科運営協力室

TEL 0235-28-2819

●生物環境学科

日時/2月18日(水)森林環境資源学講座

19日(木)地域環境科学講座

両日も9:00~17:00頃(詳細はHP)

場所/3号館301教室

発表形式/口頭発表

問い合わせ/学科運営協力室

TEL 0235-28-2843

山形大学の行事・催事のご案内です。
地域に根ざした大学としてみなさんのご参加をお待ちしています。

公開講座等

理学部

小さな科学者・体験学習会 「マイナス200度の世界」

日時／3月14日(土) 13:50～15:30
場所／SCITAセンター(山形市・理学部内)
募集人員／20名(小学4年生～中学生、保護者同伴歓迎)
参加費／無料
問い合わせ／SCITAセンター
TEL 023-628-4506



農学部

農学部紹介講座 農学の夕べ

農学研究を、気軽に広く知って頂く企画です。食育、有機農業、バイオテクノロジー、環境問題等について、毎週各分野の教員が研究の今を語ります。

日時／6月5日(木)～2月5日(木)
原則として木曜日の18:00～19:30
場所／農学部3号館(鶴岡市)
対象／一般の方、大学生、高校生
その他／プログラムなど詳しくは農学部HPをご覧ください。
受講料／無料
問い合わせ／農学部事務ユニット
学部チーム(学務担当)
TEL 0235-28-2808
FAX 0235-28-2814



森の学校(3回目)

次代を担う子供達が四季を通じて森林と出会い、森林に興味や関心を抱かせながら、植林・下刈り作業、木工・炭焼き・リースづくり、森の探検・秘密基地づくり、野生動物観察、積雪観察、かまくら設営などのプログラムを年3回にわたって実施します。

日時／1月31日(土) 8:45～16:00
場所／農学部附属やまがたフィールド
科学センター演習林(鶴岡市上名川)
対象／小学3・4年生
参加費／500円
問い合わせ／農学部事務ユニット
附属施設チーム
TEL 0235-24-2278



国際センター

留学生による日本語発表会

日時／2月12日(木) 9:30～16:15
場所／小白川キャンパス
教養教育1号館127教室(山形市)
対象／教職員、学生及び一般の方
参加費／無料
問い合わせ／国際センター
TEL 023-628-4927



キャンパスイルミネーション

工学部キャンパス内の イルミネーション

今年も冬の工学部を美しいイルミネーションが彩ります。約4万5千個の電飾で、正門から附属図書館工学部分館までの並木、

事務棟正面と生協前広場を飾ります。
期間／12月1日(月)～2月28日(土)
点灯時間／16:00～24:00



小白川キャンパス イルミネーション

今年で3年目となる小白川キャンパスイルミネーションが始まりました。正門ロータリーと人文学部正面玄関にイルミネーションを飾り、今年の冬も彩り豊かなキャンパスになりました。山形大学では、皆様のお越しをお待ちしております。幻想的なキャンパスをお楽しみください。

期間／12月9日(火)～1月20日(火)
点灯時間／16:30～21:00



イベント協賛

上杉雪灯籠まつり協賛

今年も、工学部の学生ボランティアと職員で工学部前の歩道及び工学部正門から附属図書館工学部分館までのケヤキ並木に雪灯籠・雪ぼんぼりを作ります。

日時／2月14日(土)・15日(日)の2日間
その他／工学部駐車場を一般に開放します。



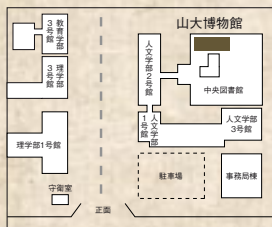
山大博物館

YAMADAI MUSEUM

特別版

天地人シリーズ②

2009年のNHK大河ドラマは直江兼統を主人公にした「天地人」。そこで「兼統」の人となりや武人としての活躍、米沢を治めるようになってからの生き方等を特別版3回の「天地人シリーズ」としてご紹介していきます。



附属図書館及び附属博物館は学外の方もご利用いただけるように開放しております。利用方法等は図書館カウンターにお申し出ください。知的宝物がいっぱいの附属図書館・博物館に是非お越しください。



大手門復元の様子
(写真提供/最上義光歴史館)

前回の天地人シリーズ①が、直江兼統ななおえ かねつぐ歴史舞台への登場であったとすれば、今回は兼統の人生におけるクライマックスでしょうか。慶長5年という年は兼統にとって激動の一年でした。慶長5年9月、兼統は出羽に最上義光もがみよしあきを攻めますが、この戦いは奥羽(出羽)の関ヶ原とも慶長出羽合戦ともよばれ、霞城公園に建つ義光像の指揮棒が指すところこそ決戦の地、長谷堂です。長谷堂城は山形城の西南7kmほどの独立丘陵に築かれた山形城の支城でした。猛攻をかける上杉軍、地の利を活かし必死の攻防を繰り返す最上軍、激しい戦闘は半月にも及びますが、戦況は関ヶ原での東軍勝利の報がもたらされたことで一変します。石田三成の西軍が敗れ、最上軍を相手に戦をしている場合ではなくなった上杉軍の撤退が開始されるのです。上杉軍のダメージを最小

限にくい止め巧妙な采配で整然と退却する兼統を、敵将である義光、天下の徳川家康が「さすが上杉、これぞ兼統」と感じ入り褒め称えたといえます。

さて、この資料は長谷堂城大手門の扉と伝わるものです。城の門番を勤めた者の家に代々保存されていました。長く囲炉裏の上の天井から吊り下げられていたため、燻されて黒光りしていますが、そのおかげで虫食いもなく良好な状態で現在に残されました。戦いのさなかに上杉勢の放った鉄砲の弾跡が残されているなど、長谷堂合戦を語る貴重な資料です。

なお本館では、家康を挑発し関ヶ原の戦いの導火線ともなった「直江状」の写しを2つ所蔵していますが、これについての記述はまたの機会に譲ることとしましょう。

(山形大学附属博物館 高橋加津美)



は
せ
ど
う
じ
ょう
お
お
て
も
ん
と
び
ら

縦203センチ×横104センチ

長谷堂城大手門扉

「山形大学 未来基金」 ご協力のお願い

平成20年3月に「山形大学未来基金」を発足し、おかげさまで、卒業生、在学生の保護者、名誉教授等
本学関係者をはじめ、各企業・団体等の皆様から御支援をいただいております。
引き続き、本基金の趣旨に御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

編集後記 Editor's Note

季節は冬に。寒い季節がやってきました。2008年はアメリカの大手証券会社の経営破綻の煽りを食い、世界中で金融危機が起こっています。日本の経済状況も寒い状況です。「みどり樹」では、そんな寒さに負けないホットな話題を紹介しています。今回の記事はいかがでしたでしょうか。興味深く読んでいただけたものがあれば幸いです。編集に関わっていると、山形大学のさまざまな話題を知ることができます。紙面の都合もあり、すべての話題を取り上げられないのが残念です。今後、社会も揺れ動きながら進んでいくでしょう。みどり樹も少しずつ変わりながら、今後もホットな話題をお届けできるよう努めていきたいと思っております。

(みどり樹編集委員会委員 奥野誠一)

表紙の ことば

昨年7月に開院した医学部附属病院の新病棟。救急車の進入経路を考慮し、2台の救急車に同時に対応できる救急搬入口を新病棟東側に設けた。山形大学医学部は、地域医療を支えるとともに、最先端の研究分野でも成果をあげ、大きな期待と注目を集めている。

- この「みどり樹」は下記URLからもご覧になれます。
URL : <http://www.yamagata-u.ac.jp/html/kouhoushi.html>
- 「みどり樹」に対するご意見・ご質問等をお気軽にお寄せください。
E-mail : sombun@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
- 「みどり樹」は、3月、6月、9月、12月に発行する予定です。

—地域に根ざし、世界を目指す—

山形大学
Yamagata University

山形大学ホームページ <http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>